

未来創造プロジェクト 2年

地域創生講話 = うごく・つながる =

2年生のテーマは、「やまがたの未来をデザイン（よりよく）する」です。キーワードは「うごく・つながる」です。社会とのつながりの大切さや山形への愛着心を育て、社会や地域のために自分たちが行動していくことをねらいとしています。2年生は、3名の講師の方をお招きし、地域創生に関わるお話をさせていただきました。生徒の感想（学び）にもあるように多くの学びをいただき、探究のたねを育てるきっかけをいただきました。

地域創生講話① 講師：鈴木晴也さん

福島県出身で、山形県に住んで10年になられる晴也さんは、大学では数学を専門的に学び、卒業後は遊佐町地域おこし協力隊や遊佐高校ハウスマスターを経験なされた方です。現在は、遊佐高校で教育コーディネーターを務めていらっしゃいます。晴也さんの生き方・考え方に、「うごくたくさんの人に出会える」すばらしさを学び、その情熱・行動力に一步踏み出す勇気をもらいました。



心に残ったのは、学生の時にゲストハウスを仲間と一緒に作ったという話です。学生が空き家をフル活用してDIYで改装するという行動力がすごいです。「とりあえずやってみる。動いてみる」という姿勢が人生に彩をもたらしていることに感動しました。（生徒の感想より）

まちづくりというのは、「人の集まり×場所」をつくること、そして思い出したい瞬間を紡ぐことがいいまちづくりだと教わりました。一人で考えるというよりも、自ら動いているいろんな人と出会い、より多くの人を巻き込んでつくっていくものなのだと思います。「熱中・熱狂⇒最強・とことんやっちゃえ」「人は帰れる場所があると強く踏み出せる」「将来の夢があるなら解像度をどんどん上げていく」ことが大切であることなどを学びました。（生徒の感想より）



未来創造プロジェクトも、晴也さんのように、様々なことに視野を広げることで、問題や解決すべきことを見つけ、考え探究していきます。様々なことへの挑戦やまちづくりに取り組むこと、人と関わること、自分の好きなことを見つけること、やりたい職業などを見つけ、努力し続けることなど、自分の行動は、自分の人生をデザインすることにつながるのだと思います。今自分が悩んだりしていることも、自分の人生をよりよくしていく種になるのではないかと思います。（生徒の感想より）

地域創生講話② 講師：結城こずえさん

結城さんは、農林水産省農業女子プロジェクトメンバー・山形農業女子ネットワーク発起人です。大学卒業後、名古屋で英語を生かした仕事をしていらしたそうですが、結婚を機にUターンして、現在は家業の農家まるつね果樹園（天童市）で、農業に従事しておられます。

結城さんのご講演では、農業が抱える課題である、担い手不足（高齢化・人口減少）、自然災害（地球温暖化）、食料自給率の低さ（先進国の中で最低38%）から、農業という仕事の必要性について考えました。ご自身が農業支援を通して得た地域創生の意義や楽しさ、山形への愛着、そして地域起こしとして何ができるか、動く人と人はつながるなど、多くの学びを得ることができました

農林水産省農業女子プロジェクトメンバーとして、国際連合2018年ニューヨークの国際連合女子部（CSW62）でスピーチなされたご経験もうかがい、大きな刺激になりました。

農業は楽しそうな仕事だなと思えました。農業の役割は食料生産の他にも生態系を守り、様々な恵をもたらしているということに感動しました。毎日ご飯を食べられるということは、農家さんが育ててくれているからです。当たり前のことのようにですが、おいしいものを作ることで人々を幸せにできるということは素晴らしいことです。山形の様々な課題を一人で解決することは難しかったため、動いて地域の人や女性農業従事者とつながって解決への第一歩を踏み出したことが印象に残りました。「世界はこうだが、山形はどうだろう」という視点が大事であるという点にも共感しました。（生徒の感想より）



私の祖父も果樹を栽培し、加工してジュースなどを作っています。ですから、結城さんが果物をドライフルーツやピクルス、お茶に加工するというアイデアがすごいなと感じました。農家の方の平均年齢が68歳という高齢化問題や担い手不足、自然災害などの影響で果樹栽培をする人が減っているということを知りました。そんな中でも、山形の果樹栽培に適した気候風土を生かし、おいしい果物を守っていくべきだと思いました。結城さんが教えてくれた「Action trumps everything~行動はすべてに勝る~」を胸に前へ進んでいきたいと考えました。（生徒の感想より）

結城さんの人生から、たくさんの「うごく」「つながる」ことの大切さを学びました。「こう思っているのにあれができない」ということへの解決の糸口を探し出し、農業女子ネットワークをつくったことがきっかけで、NYへ行ってスピーチをし、作りたかったものを作ることができたのは、結城さんの「行動力」が優れているからだと考えました。「行動し、つながる」とはこういうことなんだと具体的に理解できました。最後におっしゃった「修正しながら進んでいこう」「失敗してもいいんだ」を大事にし、私もどんどん行動して行って失敗して、自分の納得できる答えを導き出そうと思いました。（生徒の感想より）

地域創生講話③ 講師：柴田邦昭さん

社会福祉事務所を経営し、地域のために日々尽力されていらっしゃる社会福祉士の柴田邦昭さんに、お話しいただきました。日本・山形が抱えている課題について、山形県の地域課題をデータに基づいて論理的に理解することができました。特に高齢化社会に焦点を当てて考え、地域共生の意義、地域のつながり、社会福祉の果たす役割について理解を深めました。山形市のある町の世帯状況（一人暮らし世帯、借家世帯、空き家等）を地図で示してくださるとともに、身近な方のお年寄りの生活の様子を例に挙げ、認知症や買い物難民、ゴミ屋敷、そして介護制度、成年後見人制度の話などについてお話しいただきました。グループで話し合うことで、他人事ではなく身近な課題であることを感じさせられ、これからどうしていくかを考えることができました。



今福祉に関する専門的なことや問題になっていること等、深く学べました。特に高齢化も問題は家族内だけでは抱えきれないような深刻で大きな問題になっていることを知りました。「福祉」というと、私は、老人ホームや等の高齢者向けの取り組みを思い浮かべます。ですが、知的障がいの方やヤングケアラー、虐待を受けた児童に関する問題も福祉とつながっていることに気が付きました。印象に残っているのはボランティアをしている人々のことです。実際にごみ屋敷の片づけ作業をしている動画を見せていただきました。近所の人たちが来てくれて、家の中のものを分類してくれた様子を見ました。“家族だから”という理由でもなく、何らかの“報酬”があるわけでもなく、協力して誰かの役に立とうとする人たちがカッコいいなと思いました。

(生徒の感想より)

福祉は、「**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ」で、「ふくし」なんだということを教えてもらった。認知症になってしまった人が、ごみを集めたくていけるわけではないということが分かったので、その人が社会から独立しないように、僕も、身近な人に寄り添ってあげたいと思った。また、成年後見人や自助・互助・共助・公助、さらに子ども食堂と、新しいことを知ったので、身近なことに当てはめていってより理解を深めていきたい。(生徒の感想より)

世界を見て、今自分は何をしなくてはならないか、問題は何か、必要なことは何かということ踏まえて、「私たちには何ができるか」ということを考えたい。これから高齢者が増え、福祉が当たり前になっていくのだと思うが、目を背けず、地域の人とコミュニケーションをとったり、ボランティア活動に参加したりして、自分ができることを精一杯やっていきたいと思った。人は誰でも、“かけがえのない存在”だから、“尊重”し合い、“人の権利”を重要視して生活していきたい。

(生徒の感想より)

